

I 情報基盤の整備（医療情報連携）

事業番号①

ひろしま医療情報ネットワークの整備

地域の医療機関の連携を促進するため、医療情報を効率的に利用することを目的とした「ひろしま医療情報ネットワーク」を整備する。

現状と課題

- 地域医療の再生には地域の医療資源を有効に利用することが重要であり、地域の基幹的役割を持つ病院と病院・診療所が役割分担を明確にし、連携を強化することが必要である。
- 効率的な医療連携を推進するためには、医療機関間で患者情報を共有する必要があるが、電子化された医療情報を共有する仕組み（＝ネットワーク化）に取り組む医療機関が一部に現れているものの、基幹的病院等を中心とした傾向になり、より広域なネットワークまで発展しづらい。
- 病院や一部の地域を単位とした医療連携情報ネットワークから、県全域で、より多くの医療機関が医療情報を共有化し、連携するためのインフラを整備する必要がある。

(千円)

事業費	905,414
国庫	
基金	※904,679
県費	735
事業者負担	

事業の目的

※今後の運用益により発生する見込みの基金余剰額を財源とする。なお、財源とすべき基金余剰額が不足し、上記の基金負担額に満たないこととなった場合は、事業者負担により事業を実施する。

- 医療の均てん化，平準化
- 県民の安心確保
- 病診連携
- 医師の技能の向上
- 社会資源の投資抑制
- 医療費の削減

【目標】

- 既存の地域連携ネットワーク・各二次保健医療圏の基幹的病院を結ぶ全県的なネットワークの基盤を構築する。
- 7つの二次保健医療圏すべてに地域医療連携ネットワークが整備されている。
- 各二次保健医療圏の基幹的病院のうち、50%の病院が地域医療連携ネットワーク上で、診療情報を提供する。

事業概要

事業実施主体	社団法人広島県医師会
運営方法 (運営組織)	県医師会が中心となって、ネットワークを維持し、事業が継続するよう運営組織を設置する。
運営組織の構成	県医師会のほか、地区医師会、各地域医療連携ネットワーク（基幹的病院）等全県から構成委員を選出する。
運営組織の役割	運用ルールづくり、ネットワークの利用推進、参加希望施設の審査・承認等の手続や研修等を行う。
運営経費	参加団体等からの会費等を得て運営を負担する。

○事業内容（⇒できるようになること）

- ・病院が提供する患者情報（電子カルテ情報）の参照,
- ・病院の検査機器（CT や MRI 等）の予約
- ・画像情報のネットワーク伝送

○設備の概要

区分	項目	内 容
ネットワーク	VPN 網の整備・連結	既存の地域医療連携情報ネットワークや新たに構築される連携ネットワークを連結させる。
基盤	アクセス管理機能	利用する医療機関等の認証を行い、不正アクセスを防止する。
	ポータルサイト	メニュー、情報連携する医療機関名を表示する。
	ネットワーク監視	セキュリティの高いネットワークを構築する。
	患者 ID 連携管理	連携する医療機関の患者の ID を名寄せする。
アプリケーション	検査機器予約システム	基幹的病院の検査機器の利用予約をネットワーク上で行うシステム
	画像情報共有システム	CT・MRI 等の画像情報をネットワーク上で共有するシステム

○事業費

①地域医療再生計画期間（平成 25 年度まで）

事業主体である広島県医師会等に補助

- ・基盤機能（ポータルサイト、アクセス管理、患者 ID 連携等）構築
- ・検査機器等予約システム、画像情報共有システム導入
- ・ネットワーク整備
- ・各二次保健医療圏を対象とした地域連携ネットワーク整備に対する補助
- ・整備検討委員会会議費等

＝905,414 千円（基金 904,679 千円）

※地域連携ネットワークの構築には、別途国庫補助の利用、病院負担を見込む

②地域医療再生基金終了後（平成 26 年度以降）

ネットワーク運用にかかる経費は参加団体からの会費等により確保

スケジュール

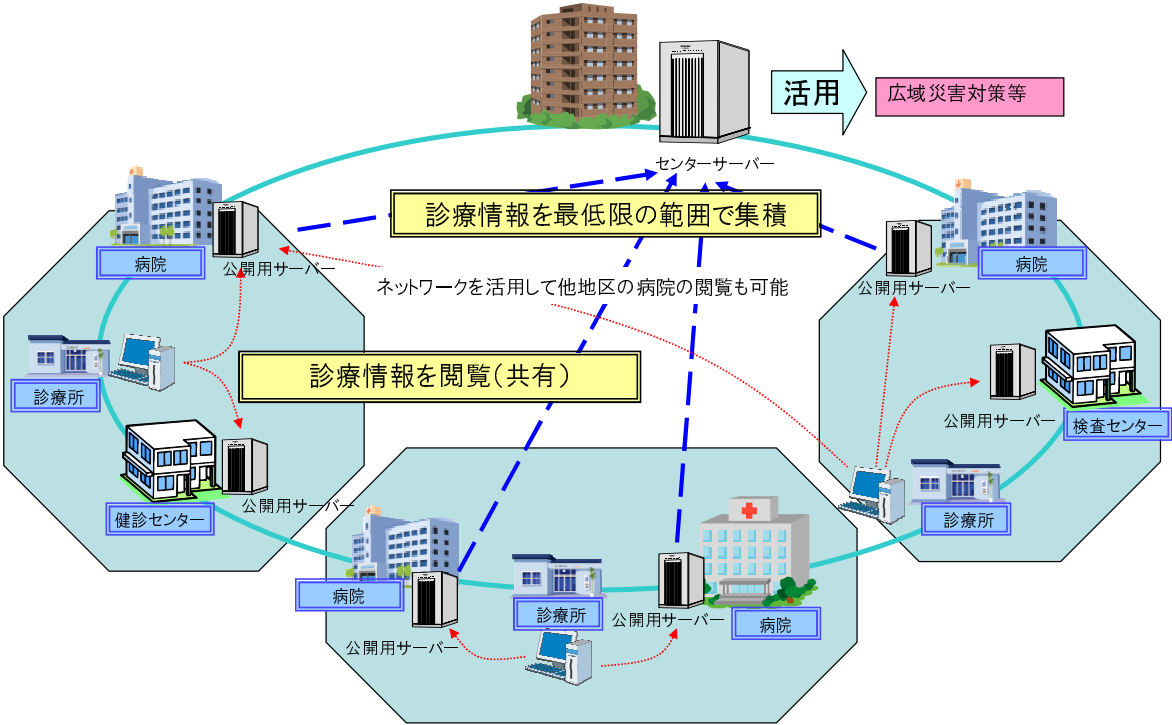
H23 年度 事業具体化検討（運用ルール等の制度設計、整備内容検討）

H24 年度 システム仕様検討，調達・構築作業開始，パイロット事業実施

H25 年度 調達・構築作業・運営開始

区 分	H23	H24	H25	H26
ひろしま医療情報ネットワーク整備 検討委員会	ネットワーク整備内容の検討，運用ルール等の制度 設計，仕様検討，運営開始準備			ネットワーク運営
ひろしま医療情報ネットワー ク整備		ネットワーク構築		ネットワークの運 用開始

事業イメージ



(この事業の補足資料⇒P72 参照)

IV 医療資源の地域偏在の解消

事業番号⑩

医師の診療科・地域偏在の解消に向けた調査・研究の推進

地域別・診療科別医師数、患者数、疾病の発生動向、患者の受療行動など客観的データを把握・分析し、医療資源（医療人材、医療機関、医療機器）の最適な配置に向けて検討を行う。

現状と課題

高齢化の進行などにより県民の医療ニーズは今後ますます高まることが予想されるが、本県においては医師不足が深刻化するとともに、高度医療資源が都市部に集積するなど、診療科間、地域間で資源が偏在している状況にあり、より効果的・効率的な医療体制の構築に向けて、この偏在の解消を図る必要がある。

(千円)	
事業費	86,036
国庫基金	67,356
県費	18,680
事業者負担	

事業の目的

医療需要と医療資源の将来予測に基づき、“広島県の10年後の医療資源配置の望ましい姿”を関係者合意のもとに作成し、県内どこに住んでいても必要な医療が安心して受けられる体制づくりを推進する。

【目標】

- 関係者合意のもと、医療資源の需給モデルを作成し、保健医療計画の改訂に反映するとともに、新たに設置する「広島県地域保健医療推進機構」における医師派遣調整等に活用することで、無医地区の医療体制の充実など医療資源の偏在の解消に向けた取組みに資する。

事業概要

地域別・診療科別医師数、患者数、疾病の発生動向、医療費の状況、受診の動線など客観データを調査・分析し、医療提供体制にかかる全県的な需給状況を把握するとともに、人口の将来推計等を踏まえた疾病の発生予測と、医療資源分布の将来予測に基づき、医療資源の偏在の解消に向けた取組みの方向性について検討を行う。

実施主体	県	
事業内容	23年度	○調査項目等の検討 第6次保健医療計画策定検討委員会の部会を活用 ○患者調査・医療費分析等の実施（専門業者へ委託） ○現状分析及び医療資源の需給モデルの作成（専門業者へ委託） 医療機能調査、必要医師数実態調査、医療費適正化計画、人口動態等も踏まえ、医療資源の需給モデル（試行版）を作成

	24 年 度	○医療資源の偏在解消に向けた検討 ・現状分析及び需給モデルに基づき検討を進め、関係者・県民の合意を得て第6次保健医療計画に反映 ・需給モデル（試行版）の見直し
	25 年 度	○住民の地域医療維持・確保への合意形成のために、地域医療を考える住民組織を設置 ○レセプト等による医療資源適正配置等の分析のため、医療・介護・保健情報総合分析システムを整備
事業費	86,036 千円（基金 67,356 千円） ・医療にかかる現状分析、医療費分析等及び需給モデル作成委託 ・医療・介護・保健情報総合分析システムの整備 ・検討経費（会議費、賃金等）	

スケジュール

H23	H24	H25	H26
患者調査・医療費分析等 需給モデル作成	医療資源の偏在解消 に向けた検討	医療資源の偏在解消に向けた取組の推進	
		分析システムの整備	適正配置に 向けた取組
		住民組織の設置	
	保健医療計画への反映		

【具体的な事業内容等】

1 目標設定の考え方

医師不足はもとより、地域偏在、診療科偏在が深刻化する中、県内どこに住んでいても必要な医療が安心して受けられる体制づくりを進めるには、医療資源と受療の現状及び将来見込み等詳細な調査・分析に基づき、官民一体となって取組む必要がある。

V ヘき地医療の支援

事業番号⑬

診療船「済生丸」の強化

瀬戸内海巡回診療船「済生丸」の新船建造にあわせ、新たに搭載する医療機器を拡充整備する。

現状と課題

- 平成2年に就航した現在の瀬戸内海巡回診療船「済生丸」は、離島・島しょ部住民への検診実施や医療提供を行うとともに、地域医療に従事する医師等の研修にも活用されているが、現行船は老朽化が進み、平成25年を目途に新船の建造を行うこととしている。

(千円)	
事業費	36,680
国庫基金	※18,340
県費	
事業者負担	18,340

※今後の運用益により発生する見込みの基金余剰額を財源とする。なお、財源とすべき基金余剰額が不足し、上記の基金負担額に満たないこととなった場合は、事業者負担により事業を実施する。

- 新船の建造に際しては、離島・島しょ部における検診機会の充実を図るため、医療機器等の整備による機能拡充が求められている。

事業の目的

巡回診療船の機能拡充により、離島・島しょ部住民の検診受診を促進する。

【目標】

- 診療対象の離島・島しょ部におけるがん検診受診率の向上

事業概要

瀬戸内海巡回診療船「済生丸」の新船建造に併せ、新たに検診用医療器等を整備拡充することとし、岡山県、香川県、愛媛県、広島県の4県共同で支援を行う。

事業主体	社会福祉法人恩賜財団済生会
事業内容	新船建造にあわせ、医療機器を整備拡充する。 ・胃部集団検査X線システム ・胸部集検用X線装置 ・乳房用X線装置（マンモグラフィ） ・超音波画像診断装置 ・無散眼底カメラ等
事業費	36,680千円（基金18,340千円）

スケジュール

H23	H24	H25	H26
済生丸新船建造計画の策定		新船建造、機器整備	新船運用